

立場を明確にして話す	自分の考えをもつ基盤をつくる	「話すこと・聞くこと」の目的と必然をもつ	次時
3	2	1	ねらい
<p>③自分の立場を明確にして意見を言ったり、質問をしたりすることを目標として「最も優れたメディア」についてパネルディスカッションを行う。(A話すことイ)</p>	<p>パネリストとして担当するテーマの立場、または、フロアーとして共感するテーマの立場に対する自分の考えを、図書やインターネットを利用してし、情報を集めながらまとめることができる。</p>	<p>意識調査を基に自分の考えを仲間に分かちやすくと話せるようになりたい」という意欲をもち、自分のテーマや立場を決定することができる。</p>	<p>ねらい</p>
<p>①本時の付けた力を確認する。 全体・・・自分の立場を明確にして話す。 個人目標・・・個人目標プリント ②今日のテーマとそれぞれの立場を確認する。 (最も優れたメディアとは) ・インターネット・テレビ・新聞・雑誌</p> <p>「最も優れたメディア」について自分の立場を明確にしてパネルディスカッションをしよう。</p> <p>◇パネルディスカッションを行う。 ①パネリストの意見発表 ②パネリストによる討論 ③フロアーも参加して全体討議 ◇パネルディスカッションのまとめと学習の振り返り。</p> <p>私は、最も優れたメディアはインターネットだと思っていて、情報の信頼性は同じだと思っていた。しかし、テレビの立場の人から「ちよっとした間違いであってもテレビでは謝罪している」という具体を聞いて、その情報を流す責任の重さが違うのかもしれないと思った。確かにテレビで名前を少し言い間違えただけでもしっかりと謝罪している場面を見たことがある。立場を明らかにすることで視点がはっきりし、根拠をもって話せると思った。</p>	<p>①前時に決めた自分のテーマと立場を確認する。 テーマに対する立場を明らかにして、自分の意見をまとめよう。</p> <p>②自分の意見を考える。 ・インターネットは即時的に知りたい情報だけを知ることができるが、より多くの情報を検索することができるから最も優れたメディアはインターネットだと考える。 ③根拠となる具体的な体験や知識をまとめる。 ・グリーン部で今がまき時の花を調べようとしたとき、本で調べた人もいたけど、インターネットで検索した方が速かったし、本よりも多くの植物の情報を得ることができた。 ④予想される反論とその答えを考える。 ・インターネットでは様々な人が自由に情報を発信することができるので、間違った情報も含まれるという人がいるけど、自分の得た情報をうのみにするのはなく確認することはどのメディアであっても必要なことだと思う。なぜなら、新聞や雑誌、テレビに至っても、そこには人の手が加わっており、編集されて私たちの基に情報が届いているからだ。</p>	<p>①意識調査を基につけた力を確認し、これからの学習に対する意欲をもつ。 ・自分の言いたいことをうまく伝えたい。↓立場を明らかにする。 ・相手の言っていることを理解したい。↓共通点と相違点に注意しながら自分の考えを相手に説得力をもって伝えたい。↓根拠を明らかにする。 ・話し合いの中で自分の考えを広げたい。↓互いの立場や考えを尊重して話し合う</p> <p>自分の意見を相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えを広げ深めたりするために、話し合うためのテーマや自分の立場を決めよう。</p> <p>②話し合い方モデルを見ながらパネルディスカッションについて知る。 ・あんな風に話せるようになりたいな。 ・私は、どんなテーマでパネリストをやろうかな。 ③自分の担当するテーマと立場を決める。 (最も優れたメディアとは) ・インターネット・テレビ・新聞・雑誌 (勉強をする目的は) ・進路実現・夢の実現・教養・自分の成長 (スポーツをする目的は) ・健康・相手に勝つ・楽しみ・心の成長 (職業選択の基準) ・やりがい・収入・社会貢献・ゆとり</p>	<p>主な学習活動</p> <p>学習課題</p>
<p>〈評価規準〉 自分の立場を明らかにして話すことができている。</p> <p>〈評価の場面、方法〉 ノート記述・発言 〈手立て〉 フロアーについては自分が共感する立場を挙げながら話させる。 前に話した仲間とつなげて話すようにする。また、話す際には自分の立場をはっきりとさせてから話させる。</p>	<p>〈評価規準〉 自分がパネリストを担当するテーマとその立場について意見をまとめることができている。</p> <p>〈評価の場面、方法〉 プリント記述 〈手立て〉 図書やインターネットなどの情報、これまでの経験、辞書的な意味など、偏りなく、多面的・多角的に考えることができるよう、「情報」の観点を踏まえたプリントを用意する。</p>	<p>〈評価規準〉 事前に調査したテーマとテーマに対する立場を板書し、ネームプレートを用いて自分がパネリストとなるテーマとその立場を示せるようにする。</p> <p>〈手立て〉 事前に調査したテーマとテーマに対する立場を板書し、ネームプレートを用いて自分がパネリストとなるテーマとその立場を示せるようにする。</p>	<p>評価規準及び手立て</p>

仲間の意見から自分の考えを広げていくために話し合う	根拠を明確にして話す	相手の意見を自分の意見を比較しながら聞く	次
6	5	4	時
<p>⑤自分の体験や知識をもとに例を挙げながら意見や質問をすることを目標にして「スポーツをする目的は」についてパネルディスカッションを行う。(A話すこと イ)</p> <p>⑥考えを広げるために、互いの立場や考えを尊重して話し合うことを目標にして「職業選択の基準」についてパネルディスカッションを行う。(A話し合うこと オ)</p>	<p>⑤自分の体験や知識をもとに例を挙げながら意見や質問をすることを目標にして「スポーツをする目的は」についてパネルディスカッションを行う。(A話すこと イ)</p>	<p>④自分の考えとの共通点、相違点を端的にメモし、整理しながら話を聞くことを目標にして「勉強をする目的は」についてパネルディスカッションを行う。(A聞くこと エ)</p>	ねらい
<p>①本時の付けたい力を確認する。 全体・・・互いの立場や考えを尊重して話し合う 個人目標・・・個人目標プリント</p> <p>②今日のテーマとそれぞれの立場を確認する。 (職業選択の基準) ・やりがい・収入・社会貢献・ゆとり</p> <p>◇パネルディスカッションを行う。 ①パネリストの意見発表 ②パネリストによる討論 ③フロアーも参加して全体討議 ◇パネルディスカッションのまとめと学習の振り返り。</p> <p>自分の考えを広げるためには、それぞれの立場の考えを理解し、認め合いながら聞くことが大切だと思う。なぜなら、始めに自分が考えた「やりがい」の見方とパネリストの見方が違っていたり、他の立場の人の考え方で納得させられたりしたことで、自分の視野を広げることができたからだ。これからの話し合い活動でも互いの立場や考えを尊重して話し合えるようにしていきたい。</p>	<p>私は「健康」の立場で、マラソンの取組を例に挙げたけれど、「心の成長」の立場でもマラソンを例に挙げている人がいて、「何度もあきらめようとしたけれど、自分の弱さに向き合うことで走りきることができた。」という話は自分も共感することができた。自分の体験を根拠に挙げて話すことで、具体的にイメージをもつことができるので説得力を持たせることができると思った。</p> <p>◇パネルディスカッションを行う。 ①パネリストの意見発表 ②パネリストによる討論 ③フロアーも参加して全体討議 ◇パネルディスカッションのまとめと学習の振り返り。</p> <p>「スポーツをする目的は」について自分の体験や知識を根拠にして意見や質問を行い、パネルディスカッションをしよう。</p>	<p>①本時の付けたい力を確認する。 全体・・・共通点、相違点に注目して聞く。 個人目標・・・個人目標プリント</p> <p>②今日のテーマとそれぞれの立場を確認する。 (勉強をする目的は) ・進路実現・夢の実現・教養・自分の成長</p> <p>「勉強をする目的は」について自分の考えとの共通点、相違点を端的にメモし、整理しながら聞き、パネルディスカッションをしよう。</p> <p>◇パネルディスカッションを行う。 ①パネリストの意見発表 ②パネリストによる討論 ③フロアーも参加して全体討議 ◇パネルディスカッションのまとめと学習の振り返り。</p> <p>進路実現と夢の実現では最終的に目指すところが一緒だということが共通しているけど、実現するために何を頑張るのかという具体が違っていると思う。共通点、相違点に注目することで、他の立場の人と自分の考えを比較しやすいことが分かった。</p>	<p>主な学習活動</p> <p>学習課題</p>
<p>〈評価規準〉 自分の立場を明確にしながら相手の意見につなげ、自分の知識や体験を根拠として発言することができている。 〈評価の場面、方法〉 ノートの記述・発言 〈手立て〉 考えの広がりを実感できるように板書の構造をそれぞれの立場同士が互いに見せ合えるように構造する。</p>	<p>〈評価規準〉 自分の体験や知識を根拠として考え、意見を言ったり、質問をしたりすることができている。 〈評価の場面、方法〉 ノートの記述・発言 〈手立て〉 体験や知識で話すことができないう生徒についてはヒントカードを用意する。</p>	<p>〈評価規準〉 自分の考えとの共通点や相違点についてメモすることができている。 〈評価の場面、方法〉 プリントの記述 発言(質問内容) 〈手立て〉 共通点と相違点を整理してメモができるよう、学習プリントに枠を設ける。</p>	<p>評価規準及び手立て</p>

本時のねらい
仲間の意見から自分の考えを広げていくために、パネルディスカッションの形態で話し合う活動を通して、互いの立場や考えを理解しながら自分の見方や考え方に取り入れることができる。(A「話すこと・聞くこと」オ)

本時の展開 第六時 (全六時間)

教師の働きかけ

・ここまでのパネルディスカッションを通して「立場」や「聞き方」「根拠」について深めてきましたね。今日はついに最後となる「職業選択の基準」についてパネルディスカッションを行います。ここまでの学習を生かして、「自分の考えを広めるために互いの立場や考えを尊重して話し合う」ことを目指しましょう。

・実際のパネルディスカッションでは、パネリストの主張について納得できる点、もう少し詳しく聞きたい点をメモしましょう。不明な点は必ず質問をしてください。

・話し合いが終わりましたね。それでは、今回の話し合いの中で考えが広がったり、深まったりしたことはありませんか。また、考えが広がったのはなぜですか。

・それでは今日のまとめを書きましょう。

子どもの学習活動

◇前時までを振り返る。
○パネルディスカッションを通してこれまででつかんできたもの。
・自分の立場を明らかにすること。
・相手の話を整理しながら聞くこと。(端的なメモ)
・体験や知識を交えて話すこと。
◇本時のテーマと話し合う視点を確認する。
テーマ4 将来の職業を選択する基準は？
◇課題設定

自分の考えを広げるために互いの立場や考えを尊重して話し合おう。

◇パネルディスカッションを行う。

①パネリストの意見発表

「やりがい」・・・琵琶湖研修で出会った方は自分の信念をもって活動しており、その誰もが生き生きとしていた。

「社会貢献」・・・私たちは「学級のため」という思いで係活動などの仕事をやり通すことができる。職業もそれにつながる。

「ゆとり」・・・社会では「働き方」に注目が集まっている。家族や自分の時間でも大切にすることが重要だ。

「収入」・・・将来家族を養っていくことを考えると、やはり「収入」は職業を選ぶうえで重要だ。

②パネリストによる討論

・将来、家族を養うことを考えると「収入」は確かに必要だ。しかし、「やりがい」がないと長く働くことはできないのではないかな。

・琵琶湖研修で学んだ人は皆「誰かのために」活動していた。「やりがい」だけではなく「社会貢献」への思いが強いのではないかな。

・確かに「ゆとり」があっても「収入」が少なければ趣味に打ち込んだり、家族と楽しく過ごしたりすることは難しいかもしれない。しかし、「収入」がいくらあっても時間や心に「ゆとり」がなければ、それらを楽しむことができないのではないかな。

③フロアも参加して全体討議

・「やりがい」に共感する。実際に「自分が受けた恩を返す」という思いでボランティア活動をしている尾畠さんは生き生きとしていた。「社会貢献」は「やりがい」にもつながっているのではないかな。

・「ゆとり」と「収入」に共感する。保育士や介護士は「社会貢献」「やりがい」はあるけど、人員不足や賃金の問題が発生している。「ゆとり」と「収入」が必要ではないかな。

・確かに将来家族ができることを考えると「収入」が必要だと納得した。しかし、琵琶湖研修で学んだ「生き方」には人に認められるまでやり通すことや、とにかく続けるといったことがあった。自分の仕事に誇りがなければ、「収入」だけでは続けることはできないのではないかな。

◇パネルディスカッションのまとめ

・自分は「収入」の立場に共感していたけど、「社会貢献」の「誰かのために」という意見を聞いて納得した。僕も係活動で牛乳パックを自分でみんなの分を折りたたんでいる。地味な仕事だけど、自分の仕事が学級の仲間のためだと思うと頑張れる。また、仲間の意見のよさを見つけようとしたことが自分の考えを「収入」だけでなく「社会貢献」「やりがい」に広げることができた。これからも相手の意見や考えのよさに目を向けて話し合いたいと思った。

◇学習の振り返り

これまでの組織決めなどの経験から、自分が職業選択をする基準として「自分がやりたいこと」が中心になると思い、「やりがい」に共感していたが、将来家族をもつことを考えていくと、「安定した収入」その会社の勤務形態など様々な視点で選択しなければならぬと考えさせられた。

自分の考えを広げるためには、**それぞれの立場の考えを理解し、認め合いながら聞くことが大切だ**と思う。なぜなら、始めに自分が考えた「やりがい」の見方とパネリストの見方が違っていたり、他の立場の人の考え方で納得させられたりしたことで、自分の視野を広げることができたからだ。これからの話し合い活動でも互いの立場や考えを尊重して話し合えるようにしていきたい。

評価規準・手立て

・ここまでのパネルディスカッションを振り返り、話し合う時に大切にしたいことを確認する。

・聞き手はパネリストの主張とその根拠のメモを取りながら聞くよう指示する。

・進行計画を基に司会にパネルディスカッションを進めさせる

・話し合いが発展しないときは司会者に適宜アドバイスを行いパネルディスカッションが円滑に行えるようにする。

【評価規準】

・パネリストの主張に対して、自分の立場を明らかにし、仲間の意見を尊重しながら自分の考えをもつことができる。

(発表・プリントの記述)

【手立て】

・プリントに共感を記入させることで仲間の意見を自分がどれだけ受け入れているかを意識できるようにする。
・仲間の意見と自分の意見を比較しながら話し合わせる。

・自分の考えがどのように広がったり深まったりしたのかを具体的に話ができるように指示する。

・日常の生活につなげられるように本時つけた力を生かせる場面をイメージさせて振り返らせる。